令和 8 年 10 月 19 日

令和８年度一般会計における臨時支出に関する意見照会結果（報告）

1　意見照会の趣旨

令和８年６月 26 日（金）の全肢長総会において承認された令和８年度予算について、予算案の検討時には想定していなかった臨時の支出を計画した。このため、副会長、理事及び評議員の計 35 名を対象に、次の 3 項目について意見照会を行った。

（1）令和 8 年熊本地震に関する支援金として、熊本県内の肢体不自由校 5 校に対し、200,000 円を支出すること。

（2）全肢研（山梨大会）に参加する熊本県肢体不自由校長会の教頭の出張経費として、100,000 円（概算）を負担すること。

（3）約 300,000 円の臨時支出の財源として、予備費及び会長活動費・事務局長活動費の余剰分を充てること。

2　回答状況

照会対象者	回答者	未回答者	回答率
35 名	25 名	11 名	71.4%

3　項目別集計結果

審議項目	賛成	反対	結果
熊本県内 5 校への支援金 200,000 円の支出	25 名	0 名	全員賛成
山梨大会参加者の出張経費 100,000 円（概算）の負担	24 名	1 名	賛成多数
予備費及び活動費等の余剰分を財源とすること	25 名	0 名	全員賛成

4　自由記述の概要

自由記述欄には 25 名中 14 名から記載があった。「特になし」「特にありません」の 2 名を除くと、具体的な意見又はメッセージを記載した回答者は 12 名であった。主な内容は次のとおりである。

（1）支援の趣旨への賛同

被災地を支える全肢長の取組への敬意、熊本県の早期復興への願い、臨時支出の意義を評価する意見が複数寄せられた。支援金の支出そのものに対する反対意見はなかった。

（2）出張による報告方法

教頭の出張経費については大多数が賛成した一方、被災地域の学校運営への影響も踏まえ、リモートによる報告も選択肢となり得るとの意見が 2 件あった。また、対面での報告を依頼する理由を明確にする必要があるとの指摘があった。

(3) 財源の透明性

財源の考え方には全員が賛成したが、予備費、会長活動費及び事務局長活動費からの具体的な充当割合並びに支出後の残額を明確にすることを求める意見があった。

(4) 今後の災害支援の在り方

自然災害が増える中、今後も同様の支援を継続できるか、過去の災害時の対応との整合性をどのように確保するかなど、長期的な支援方針や判断基準を検討する必要があるとの意見があった。

(5) 防災・災害対応への活用

肢体不自由のある児童・生徒が災害に遭った場合の対応を学び、今後の備えにつなげたいとの意見があった。